



山中魂

～正義 勇気 土根性～

新潟市立山の下中学校たより

令和6年3月19日発行

第25号 校長 武藤 雅雄

後期終業式「進級にあたっての心構え」(校長講話抜粋)

3月19日(火)後期終業式で、次の話がありました。

1年間を振り返り、あなたが成長したことは何ですか。あなたの課題は何ですか。

山中の先生から見た「山中生のよいところ」「山中生の課題」は次の通りです。

先生が語る山中生のよいところ

- 明るくあいさつや返事がよい
- 素直で協力的
- 落ち着いた学校生活
- 行事で盛り上げられる
- ボランティア精神がある

先生が語る山中生の課題

- 学習習慣が定着していない
- 提出物がよくない
- 自分で考えず人に頼る
- からかいや冷やかしがある
- メディアコントロール

今回の春休みは19日間です。春休み中に、新年度4月からの目標をしっかりと決めて、よいスタートを切りましょう。1月の全校朝会でも話しましたが、4月からみんなに期待する姿です。

4月からみんなに期待する姿

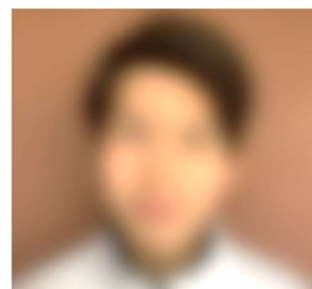
- 全校生徒が「山中生でよかった」といえる学校を創ろう！
- 新2・3年生として、後輩の手本となる、カッコいい先輩に成長しよう！

1年間の振り返りと新年度の抱負(各学年の代表生徒)

2年生代表

後期に2つのことを特にがんばりました。

1つ目は生活態度です。私たち2年生の学年目標は「凡事徹底」で、これは当たり前のことを当たり前にするという意味です。しかし、僕は当たり前のことプラスして何かやることを意識してきました。



例えば、朝のあいさつや授業前のあいさつで、クラスが暗い雰囲気になっていたら、大きな声であいさつしたり、クラス内の係の仕事で、自分の当番ではなくても気づいたら進んでやったりしました。他にも、登校中に1つゴミを拾うというルールを自分の中で決めて実行しました。当たり前なのにプラスして何かをやる習慣は、3年生になっても生かしていきたいです。

2つ目は部活動です。部長としてチームの士気を上げたり、雰囲気をよくする発言を多くしたりすることはもちろん、他にもチームで集まり技術面の課題についての話し合いを多くするようにしました。技術だけではなく、普段の学校生活やマナーについての話し合いもして、よりよい集団になれるようにがんばりました。しかし、自分も含めてチームの技術面や生活面については、まだまだ未熟な部分があります。だから、競技もマナーもナンバーワンを目指して、顧問の先生やチームメイトと話し合いながら、よりよい雰囲気の部活動にしていきたいです。そして、より多くの人から応援されるチームをつくっていきたいです。

1年生代表

私がこの1年間で学んだことは2つあります。

1つ目は何事も積極的に取り組むということです。中学校に入って初めて、応援リーダーや諸声祭の責任者という役割を務めました。小学校の頃は、こういう役割はやったことがなく、最初のころはとても不安でいっぱいでした、しかし、先輩たちがいろいろ教えてくれたり、クラスのみんなと協力したりして、無事にその役割を果たすことができました。さらに、応援リーダーでは、一人一人が意見を出し、そこから考えていく力、責任者では冷静に様々な場面に対応する適応力を身に付けることができました。私は、これらの経験をしていろいろな力が身につき、とてもよかったと思っています。だから、何事も積極的に取り組むことは大切だと学びました。

2つ目は、どんなことでも全力で取り組むということです。毎日の授業や勉強、行事でも、すべて全力で取り組めば、それがいい結果になり、次に生かすことができるということも学びました。4月から中堅学年という立場になるけれど、この1年間で学んだことを活かして、がんばっていきたいです。

